

平成30年度 製造業安全衛生セミナー概要

(転倒災害防止編)

近年、労働災害の多くを占める「転倒災害」(全体の20.9%を占める(平成29年京都府内))について、事業場で実施している防止対策をご紹介いただき、水平展開を図ることを目的としてセミナーを開催しました。

事例を取りまとめましたので、それぞれの事業場で展開されることを期待します。

転倒災害防止

1

階段等での転落災害防止対策

手すりを増設し、両側手すりとした。

片側手すりは？

手すり設置側を降りる側通行(右側左側ルールがあったとしても)としている。

階段を踏み外したときなど、昇っている時よりも、降りている時のリスクの方が高いと判断。



手すりを利用するよう注意喚起表示。矢印表示することにより、右側通行を促進。



階段では、最後の1段を見落として、踏み外すケースがあります。段数を表示することにより、踏み外しを防止。



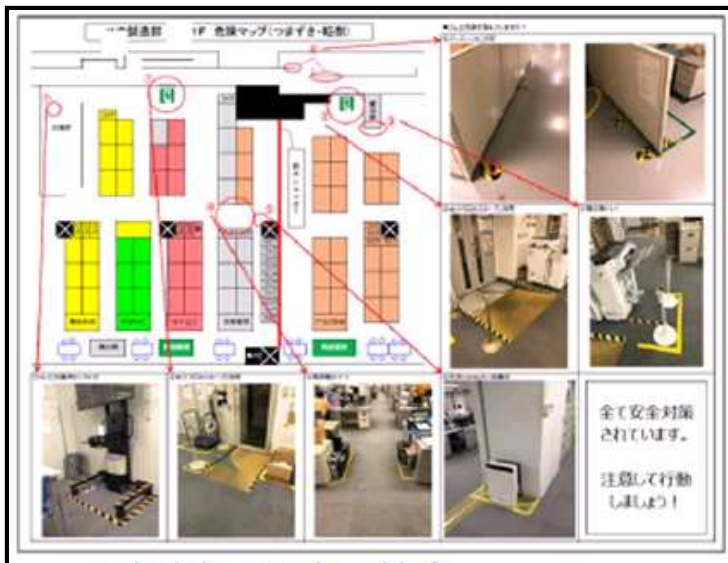
昇降方向を明確に表示。



扉の向こうは？
扉の向こうの部屋の状況の写真を扉に貼ることにより、見える化を図ったもの。

「STOP!転倒災害プロジェクト」では、「すべり」「つまづき」による「転倒」及び「踏み外し」による「転落」の災害防止対策を推進しています。

危険マップ（つまづき・転倒）の作成



マップ作成手順

職場内のつまづき、転倒のおそれがある危険箇所を特定。
危険箇所の除去。
除去できない箇所（残存リスク）については、トラテープ等による注意喚起。
残存リスクをマップに落とし込み、危険箇所を共有。

コーナー 対策事例



段差 対策事例



体感教育の実施

危険予知体感

【滑り・転倒 安全体感装置】

装置に設置している6枚のパネル（縞鋼板
ローラー 平板（段差つき） 滑り止め板
フリーローラー 足場板）上を歩き作業
者が「危ない」の感受性を高めるための教育
を実施。



再現モデルによる教育 【つまづき/転倒/滑り/5 S】

転倒災害に繋がる「不安全状態・不安全行動」を再現したモデルを作成し、潜在している「危険」をテスト形式で個々に抽出してもらい、危ないことを危ないと思える個々の能力を確認。

その後、解説を含めた安全教育を実施し従業員全体の安全に対する感受性の底上げを図る教育。

「ポケテナシ」活動の推進

「ポケテナシ」を実践しましょう！

ポ：ポケットに手を入れて歩かない
ケ：ケータイを歩きながら使わない
テ：手すりを持って階段を昇降する
ナ：斜め横断しない
シ：指差確認する

2018年8月
安全衛生統括部：発行

100% 実施!!
指差確認
私たちは安全と健康を守る
企業風土を構築します

100% 実施!!
指差確認
私たちは安全と健康を守る
企業風土を構築します

ポ ケットに
手を入れない

ケ イタイを
歩きながら
使わない

テ すりを
持つ

ナ ナメ横断
しない

シ
指差確認

健康づくりの推進

転倒予防体操（朝礼時実施）



つま先立ち



ランジ



つま先あげ



スロースクワット

健康チャレンジキャンペーン



心身機能セルフチェック



ストレッチ体操

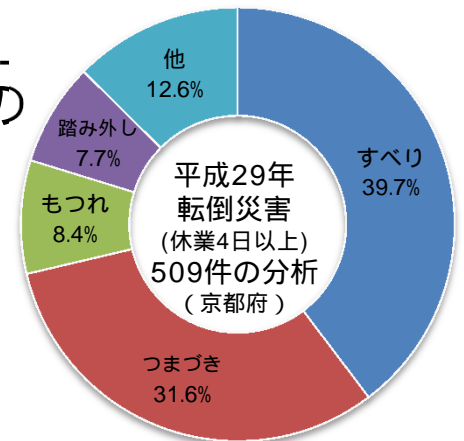
作業に適した靴を採用



つまずき防止対策（つま先を高め）に設計した耐滑性の高い安全靴を採用



□ 転倒災害には、「滑り」「つまずき」「足のもつれ」「踏み外し」の4つの典型的なパターンがあります。



- 転倒災害を防止するためには、
- 4 S（整理・整頓・清掃・清潔）に取り組むこと
 - 転倒の危険性がある場所にステッカーを掲示し、注意喚起すること
 - 職場の危険マップを作成し、危険情報を共有すること
 - 作業者の危険感受性を高める教育を実施すること
 - 健康づくりを推進すること
 - 作業に適した靴を選び、定期的に点検すること
- などが重要です。